

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300171		
法人名	医療法人社団 翔仁会		
事業所名	グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)		
所在地	北広島市輪厚704番地31		
自己評価作成日	平成 27年12月9日	評価結果市町村受理日	平成28年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0171300171-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・緑豊かな環境の中に立地しており、サンルームからは四季折々の景観を楽しむことができます。入居者様は広々とした空間で季節を感じながら、暖かい家庭的な雰囲気の中で生活しております。

・輪厚三愛病院、老人保健施設エスポワール北広島、介護付有料老人ホーム悠々と併設しており、入居相談時から入居後も入居者様やご家族様の様々なニーズに応えることができます。また、併設病院と24時間の医療連携が整っていますので安心した生活を送っていただいています。

・地域との連携を意識し、地域ケア会議へ参加するなど地域密着型サービスとしての役割を担えるよう取り組んでおります。

・毎月の行事企画も入居者様の楽しみのひとつとなっており、季節の行事や外出・外食を入居者さまと一緒に楽しんでおります。

・職員全員で理念に基づいたケアが実践できるよう日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北広島市の郊外、閑静な住宅街の一角に立地し、近くには白樺などの樹林、牛の放牧地など豊かな自然環境に恵まれている。法人はグループホーム、病院、老人保健施設、老人ホームを上空通路でつないで運営し、運営会議、委員会活動などを合同で行って、蓄積されたノウハウを研修、行事、災害対策等で各事業所が連携し相乗効果を上げている。特に病院とは24時間医療連携が整っていて、利用者、家族の安心に繋がっている。居間・食堂は明るく一体的で、写真、季節のリース、花などを飾って家庭的な雰囲気、サンルームからは白樺などの樹木を見ながら四季の移り変わりを感じることが出来る。職員は利用者自身が出来ることは無理せず任せ、利用者を主体として職員はサポート役に徹し、単にケア中心ではなく持っている能力を引き出すようなアプローチを行って生活の充実を心がけている。利用者は高齢者慰安会などの地域行事に参加し、保育園児、ボランティアが来訪し交流している。利用者は、体操・ゲームをしたり、テレビを見たり、新聞・本を読んだりしながら思い思いにゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り後に参加者全員で復唱し共有・実践につなげている。	事業所理念、ケア理念を掲示し、毎日申し送り時に復唱して職員で共有を図り、会議で毎月の目標を話し合って設定し、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や近郊中学校行事など職員と一緒に参加している。	町内会に加入し、廃品回収、高齢者慰安会などの地域行事に参加し、傾聴、芸能などのボランティアが来訪して交流している。院内保育園児が敬老会に来訪して相互に交流している。3月には中学校でキャラバン・メイトとして活動を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、行政担当者、ご家族様等と2ヶ月毎定期的に開催しご意見を伺う事が出来る。	家族、町内会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員などが参加して2ヶ月毎に開催し、活動報告、事故報告、行事などについて話し合い、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や北広島市介護サービス連絡協議会を通し行政担当者とは相談・助言をうけるなど関係づくりが進んでいる。	市担当者とは、書類提出時に運営状況、利用者の状況などについて報告し、意見交換、情報を得て協力関係を築いている。また、運営推進会議、介護サービス連絡協議会参加時にも意見交換、情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切なケアも見られるが会議などで対応を検討し改善に努めている。	「あぶないから座っていて」など不適切なケアを解消するため、外部研修に参加し、内部研修、会議などで話し合っ、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して全員が同じ研修を受けられる様毎年1～2名を参加させている。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がいる為後見人と接する機会が多い。また、権利擁護関連の外部研修にも参加するよう促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や相談の際から重要事項説明書をお渡しし説明している。契約の際も不安や不明な点等都度確認しながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭でのご意見がほとんどで意見箱が機能していなかった。その為意見箱の設置状況や利用方法など変更している。	日常の会話などから利用者の意見、要望の把握に努め、家族とは来訪時、運営推進会議参加時に利用者の日々の様子を伝え、意見、要望を聞いている。毎月、利用者の日々の様子、行事などを手紙で知らせ意見、要望に反映するよう努めている。意見箱の置く場所を変更するなどして、意見を反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と年間2回個人面談が予定されている。また、面談や会議などでも意見を聞くようにしている。	管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気を日頃から作り、年2回の個人面接、ユニット会議、スタッフ会議で意見、要望を話し合い検討して運営に反映している。勤務条件を変更し年休を取れるように改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談の他それぞれが目標設定をしながら勤務できるよう専用のシートを活用している。また、勤務条件も4週8休になり休日が増加した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促しかつ専用のファイルや報告書で気づき・学びの確認を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内介護サービス連絡協議会で管理者間の交流がある。施設間職員交流の一環で見学も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に意向や要望の確認を行い入居につなげている。また入居後も声かけを多くするなど配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に意向や要望の確認を行い入居につなげている。入居後もご家族様へも声かけするよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内の生活支援はもちろん併設の病院や老健等の利用についても柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片づけなどお手伝いいただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状の報告をお手紙や電話で行っている。また、面会時にもご意向など確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要であればサンルームを使い歓談してもらえようお話している。ご友人などの面会も多く継続して支援したい。	利用者の生活歴を把握して、買物、訪問理容など馴染みの関係が途切れないよう支援している。知人・友人が訪ねて来た時は、サンルームでゆっくり歓談出来るようお茶を出すなどして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は複数の入居者とのかわりが多く入居者の方向士もお互いへの気遣いもある。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になっても健康状態が改善し再度待機者として登録している方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中でご本人の意向を確認しケアプランに活かすよう努めているが十分ではない。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を連絡ノートに記録して職員で共有し、ケアプランに反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを使い職員はいつでも見ることが出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の把握の為にフロアミーティングなどを活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でカンファレンスを行っている。また、検討事項はフロアミーティングでも話し合っている。	利用者、家族の意向を反映させてモニタリングを行い、ケアマネが全体プランを作成し、ユニット会議で協議して、3ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の他にセンター方式のシートや申し送りノートなどで情報を共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望などがあれば柔軟に職員が対応するようになっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用を行っており傾聴・芸能など入居者の方の楽しみになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向をもとに医療機関を決めていただいている。また、希望者には訪問診療や医療連携の体制もあり24時間対応となっている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。同法人が運営し隣接する病院が協力医療機関となっていて24時間対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を看護師へ報告する体制が出来ている。必要であれば併設の協力病院へも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に係る場合は外来または病棟看護師、ソーシャルワーカーなどへ添書の提出を必ず行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で重度化した場合のお話をさせてもらっている。	契約時に本人、家族に重度化した場合や終末期のあり方について指針に基づき説明している。重度化が認められた段階で、本人、家族、主治医と協議し希望に添えるよう支援している。外部研修(ターミナルケア研修会)に参加し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルが準備されている。また、救急救命講習に参加した事が無い職員を優先して参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の消防訓練を行っている。	年2回の消防訓練を予定しているが、本年度はまだ未実施である。避難場所については、中学校及び体育館を指定している。地域住民への協力要請について検討している。	・災害はいつ、どの時間帯に起きるかわかりません。消防署の協力、地域住民の参加協力を得ながら避難訓練を定期的実施することを望む。 ・災害の際に地域の協力が得られるよう、運営推進会議を活用し、日頃から地域住民との密接な連携体制を確保するなど協力を得られる体制を構築することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月間目標としてユニットごとに目標があり言葉や態度に関連する事柄を設定する事が多く会議にて振り返るようにしている。	声かけ時の言葉づかいに注意し、ユニットごとに月間目標を立て、ユニット会議で協議して次の目標を立て、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中でどうしたいのかを聞き出すようにし自己決定を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しがちで十分な支援が出来ていない事もあるが日々のミーティングや会議にて対応を振り返る事になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。髪の毛が朝起きたままの状態で乱れていたりすることがある。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けなどお手伝いいただくようにしている。	献立は利用者の希望を取り入れて職員が調理し、利用者は能力に応じ、職員と一緒に食事の準備、片付けを行っている。誕生日などにはすしなどの行事食、キノコ、野菜など季節のメニューを取り入れ、職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。外でバーベキュー、流しソーメンを作って食事を楽しんだり、ドライブの帰りに外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてかかりつけ医に確認・相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を把握し支援しているが自立援助は出来ていない。	個々の排泄パターンを記録し、表情、態度などから把握して適時に、周囲に気配りしてさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、かかりつけ医と相談しながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りご本人の意向に沿って行っている。	入浴は週2回を基本とし、午後、各自が希望する時間帯に一人々入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌う場合には無理強いせず、時間をおくなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて居室へ誘導したりサナルームのソファを使って休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ねできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や掃除・洗濯ものたたみ等出来る限り協力いただいている。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出などの行事として企画し職員と一緒に外出する事が多い。	天気の良い日には恵まれた周辺の自然を利用して散歩、買物、外食、花見、支笏湖へのドライブ、紅葉狩り等外出支援を行って、日常生活に潤いと変化のある生活を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売の際に支援の下行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話の取次ぎなどは行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月2回花を活け季節を感じてもらうようにしている。また、調理・テレビ・話し声などの生活音が聞こえ楽しめるような工夫をしている。	居間・食堂は一体的で床暖、加湿器を設置して温・湿度に留意し、写真、利用者の作品、花、リース、ツリーなどを飾っている。サンルームからは白樺などの樹林を見て自然の恵みを享受出来るよう配慮されている。利用者は生け花や、ゲームをしたり、テレビを見ながら居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置しているが工夫はしていない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で使っていた家具など入居の際に持ち込んでいただいている。	使い慣れたタンス、テレビ、仏壇等を持ち込み、家族の写真などを飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をかけて混乱を避けている。また、トイレなどわかりやすく表記するよう配慮している。		